

MARUMO LIGHTING NEWS

■1978-1・Vol-27

春眠暁をおぼえず、処々啼鳥をきく……
またまた、という感じで春がやってきました。世の中は不況、円高など、いい話はなかなか聞こえてきませんが、季節は必ずめぐってきます。
梅が咲き、桃がほころび、まもなく桜の便りと、

色彩やかな風景がひらけてきます。なんと心がわくわくしてくることでしょ。

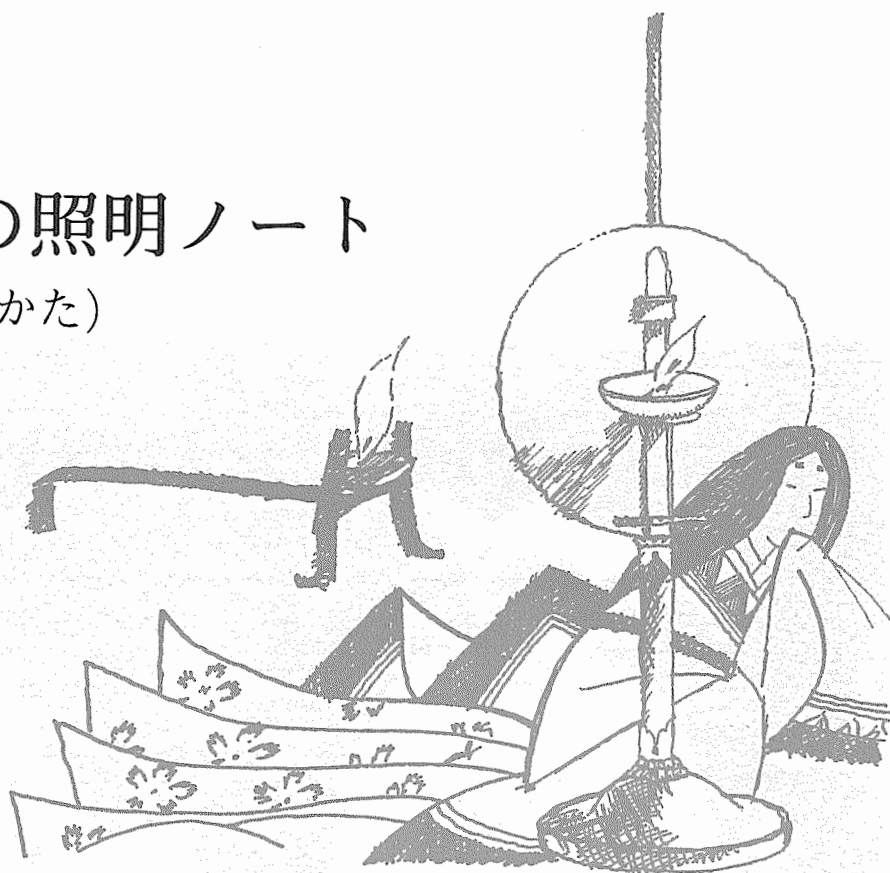
舞台にとっても新鮮なときですね。今年の抱負をいっばいにふくらませて、さあ季節といっしょに歩きはじめましょう。



榊原政常作 「廬山夜雨」の照明ノート

(照明プランのつくりかた)

舞台照明コンサルタント
牛丸光生



はじめに

作者は「廬山夜雨」で次のように書いています。「作者として書きたかったのは、現実と幻、過去と現在の交錯、つまり「蘭省花時」のはなやかさと「廬山夜雨」の寂しさとの対照に、人生変転の相を、セリフの説明だけではなく、具体的な形象で表わすことである。したがって、演出する方へのお願いは、随時に交錯する過去と現在、現実と幻を的確に、たしかにそれとわかるように表現して頂きたい。しかもそれが芝居の流れをせきとめるのではなく、かえって芝居を流して行く力になるようにである。それと三景との間に「暗転式」の断絶を作らぬこと。交錯した現在と過去から、いつの間にか過去へ、そして又いつの間にかもとの現在へ、しかもその現在にまた過去の断片が交錯するという風にである。

(原文のまま)

「廬山夜雨」では演出を基本として、装置、照明、音楽の要素が非常に重要です。演出意図によっては作品の効果も失われてしまいます。この作品はチエホフの小品を読むような、人生のよろこび、かなしみ、おかしさ、があります。この変転のさまを具象

的に表現しなければなりません。そこで、作者の演出メモからさらにイメージをふくらませて創ることが要求されています。これは難しいことですが、作者は明確に「独自の演出をしてみたいという意欲のある方以外は、この作品は取上げて下さらなくて結構」と仰言っているのですから、演出も装置も照明も意欲的に創ることです。

「廬山夜雨」は枕草紙の世界を劇化したものです。同じ作者の「しんしゃく源氏物語」と違って、過去と現在の交錯が織物のように巧みにつづられています。照明の担当者には存分の腕の振りようがあります。

照明プランをつくるときに、すぐ照明器具や配線や調光のことを考えて、色彩フィルターで、青くしたり、赤にしたりすれば、できると思っているのでしたら、間違いです。また照明器具が劇場や市民会館のようなホールでなければ出来ないというのも間違いです。

今回の「マルモライテングニュース」では照明プランのつくりかたを骨子として「廬山夜雨」をとりあげてみました。各代表作品を例として、「わかりやすい照明プランのつくりかた」にしてまとめてみたいと思っています。

イメージプラン

イメージプランのまとめ

- 作品を読んだ感想。
- 作品を、どう表現するか。
- 作品の具体化への役割。

照明プランをつくる場合、まずイメージプランを考えます。イメージプランは、まったくの白紙状態から、作品を読んで、照明設計を自由に創りあげて考えるのです。

照明設計者にイメージが貧困な時は、作者の指定したト書や、演出の感覚にふりまわされて、照明独自のプランをつくることができません。また、作品にある先入感を持つとイメージが固定化されて、創造性の乏しい照明プランになります。

イメージプランを豊かにするには、日常の感覚を養うことも必要ですが、大事なことは自分の感じたことを、素直に表現できること。既存の技術を模倣しないこと。うまくまとめようとしないこと。

よく既成演劇の模倣や物真似をするのをみます。既成演劇自体が、例えばヨーロッパの劇団のコピーで、それが好評で、たまたまそっくり真似をすると、物真似の物真似になってしまいます。どんなに拙くとも、自分達で考え、自分達の能力でつくることが大切です。大人達の手あかにまみれた作品よりも素晴らしいのです。

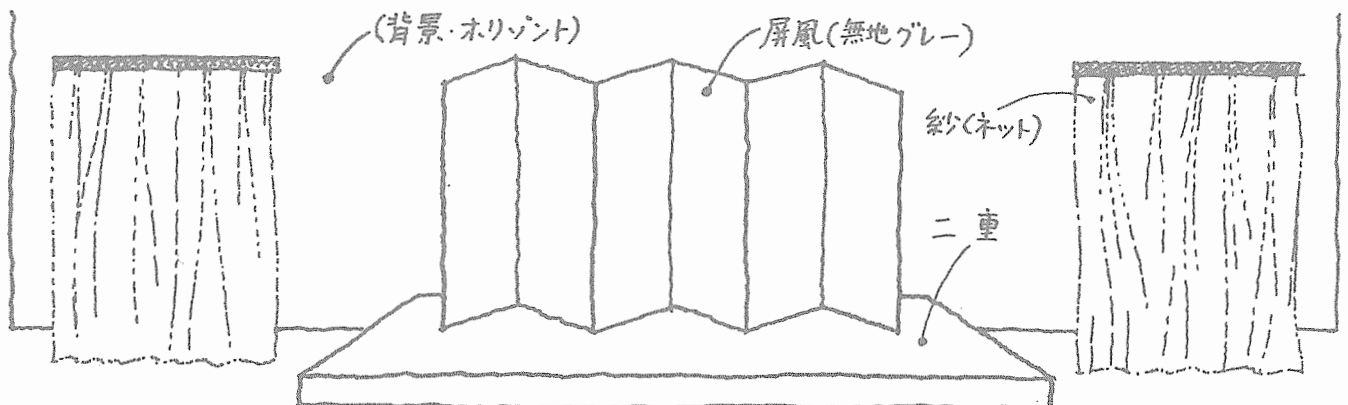
「廬山夜雨」のイメージプランでは、まず写実的か、反写実的か、造形は物体か、光か、色彩は原色か、中間色か、装置が主体か、照明が主体か、ということから考えてもよいでしょう。

今回は、写実的な照明プランを考え、照明が主体的で、セットは副次的な造形として、イメージプランをたててみます。それには、照明からみたセットプランを考えます。(A図)

照明を主体として、セットは上下の紗幕2枚と中央に屏風1枚で処理します。紗幕は白でも黒でも、バレーボール用のネットでも、テニスのネットを応用してもよい。

写実的なプランで、ト書は大事です。ト書や会話から「拾い出し」の作業をすすめます。「拾い出し」が終わったら、調査ノートをつくり、デスクプランをたてるのです。

(A図)



照明ノート

照明ノートのまとめ

- 脚本の拾い出し
- 調査ノート
- スタッフ会議ノート
- 稽古ノート

●「拾い出し」(1景だけにまとめると) (脚本は未来社版による)

頁数	No.	記(脚本)
P 7	①	平安時代。
P 7	②	1と3は老後の少納言が淋しく住んでいる草庵。
P 7	③	2は華やかな宮中。
P 7	④	秋の末。
P 7	⑤	日がとっぷりと暮れた直後
P 7	⑥	まだ、どこかで子供たちの歌。
P 7	⑦	下手から里の娘、はるとあき登場。
P 8	⑧	中から回向の鈴の音。
P 8	⑨	中から老女登場。
P 9	⑩	「桂の里の片ほとり、八重葎にも障らず入って来るものは……」
P 3	⑪	「一人っきりで淋しく暮らしているの…」
P 14	⑫	下手に則光の姿が幻のように見える。
P 14	⑬	幻は消える(則光の)
P 15	⑭	上手に、頭の中将が幻の現われる。
P 16	⑮	老女には自分の若い時代の幻影が生き生きと浮かぶ(若い少納言の幻が現われる)
P 16	⑯	幻は消える(少納言、中將)
P 18	⑰	上手下手に美しい女房たちの姿が現われる。楽の音に合わせた優美な動作、花がふりかかる。以下次第に幻が現実となり老女たちは見えなくなる。
P 18	⑱	則光の幻が現われる。

●調査ノート

「拾い出し」は演出のボドテキストと合せて、調査ノートをつくります。

①の平安時代は、藤原道隆全盛時で王朝貴族華やかな時です。「枕草紙」の世界ですから、まず調査ノートに「枕草紙について」。今から千年くらい昔のことですから、更に「源氏物語」「蜻蛉日記」を調べる。すると、次々に「栄華物語」「紫式部日記」「和泉式部日記」「更級日記」などが続々と判ってきます。いずれも女性の手による王朝貴族の文学です。

調査ノートは要点だけでよいのですが、調べると思わぬ発見や興味がおこって、深く作品を理解することができます。たとえば②の草庵は、枕草紙によると、

「女が一人で住んでいる家などは、ただもう荒れはてて、土塀などもくずれて、池などある所は水草が生え、庭なども蓬は生えぬまでも、所々砂から青い草がみえ、さびしげなありさまなのが情趣があっていい」と書かれています。調査ノートにはこのくだりをノートするのです。

また④⑤の秋の夕暮れも、枕草紙では、「秋も夕暮れがいい、夕日が華やかにさして山ざわ近く、ねぐらえいそぐ鳥が、三つ四つ二つと飛んでゆくのも情緒がある。まして雁などの列を作っているのが、小さく見えるのも、秋らしく、しみじみしていい、日が入ってしまったのちの風の音、虫の音……」

これは春はあけぼのに続いて、夏、秋の情景を歌ったものです。また⑦の里の娘たちは同じ時代の「今昔物語」に庶民の生々とした世界が描かれていますから、これも調べることです。

このようにしてまとめたものが調査ノートで、次にスタッフノートとは、

●スタッフ会議ノート

演出、装置、照明、音楽などの担当者が集って会議をするのがスタッフ会議で、どのような演出プランか装置プランかを発表し、会議します。上演可能か、可能ならばどう表現するか、演出のイメージは?というように、創造する重要な会議です。その際にノートをまとめます。つまり打合せ会議の時にメモしたものが、スタッフノートとなり、演出の意図やセットの構想や選曲などがわかるのです。

●稽古ノート

稽古ノートは、本読み、読み合わせのテーブル稽古から、立ち稽古、通し稽古の時に、脚本に、演技者の動きや持ち道具や登場、退場の位置などを書きこみます。この作業では、脚本（台本）に白紙を一枚づつはさみこんで、書いていくと便利です。

照明ノートが揃ったら、いよいよデスクプランに入ります。デスクプランには装置の立面図と平面図が必要です。

デスクプラン

デスクプランのまとめ

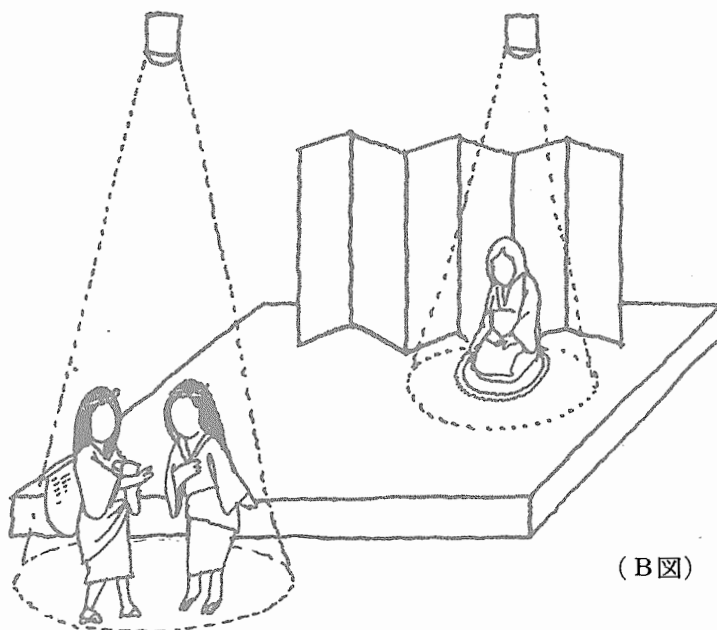
- 照明のスケッチプラン
- 立面図の書きこみ。
- 平面図のかきこみ
- 各景の照明仕込図
- 総合仕込図

●スケッチプラン

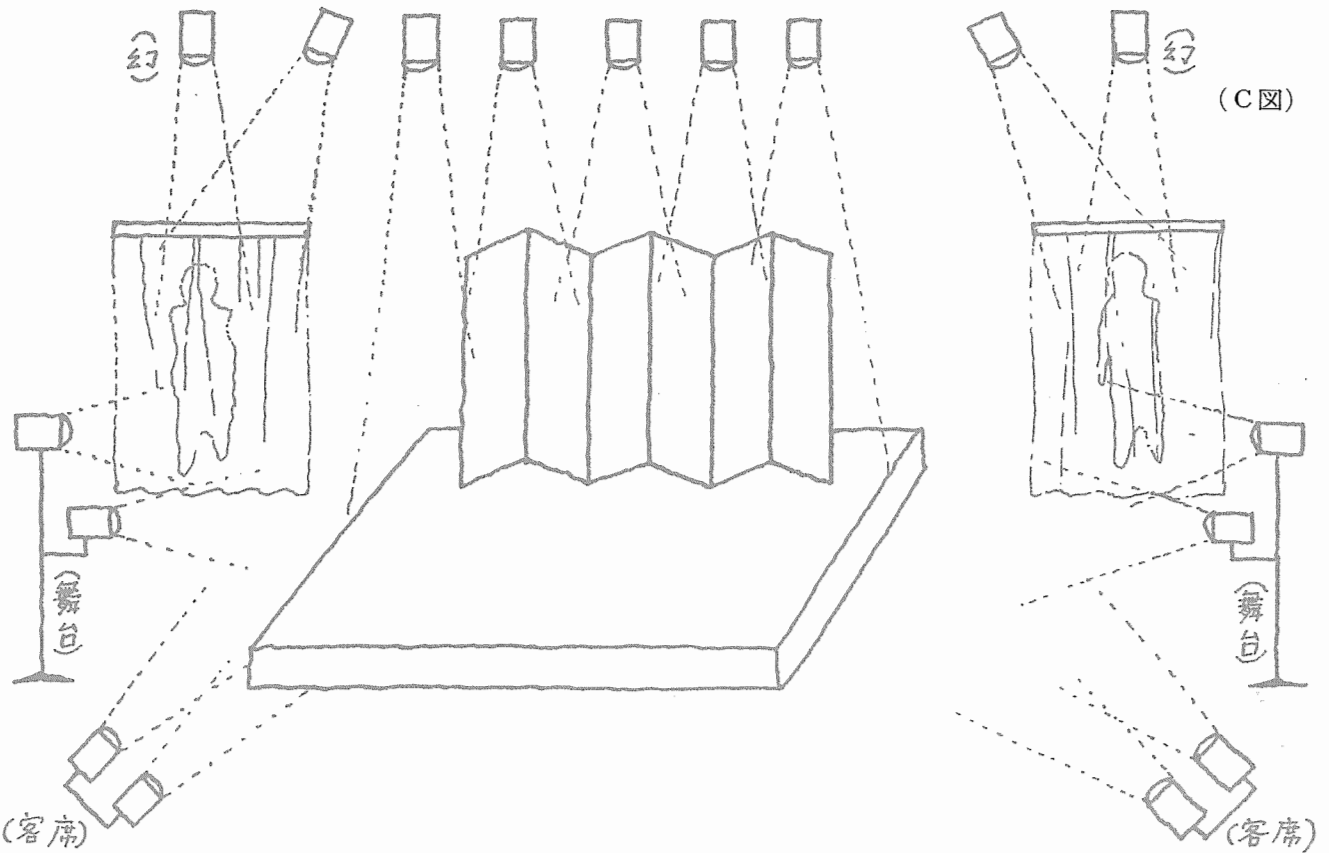
稽古中に照明の基本プランを考えます。イメージプランの段階で、写実的な表現を考えました。写実的なプランをつくる時、忠実にト書にこだわると、せっかくの演技がみえないことにもなりかねません。たとえば、1景で、秋の末で、日がとっぷり暮れた草庵のなかで、燭台もつけないで、里の娘、はるとあきが老女と会話をします。この会話で、娘たちが籠から手作りのお菓子をさしだすくだりがあります。老女と里の娘たちの会話は、未来劇場のテキストでも10ページあります。作者は情景として寂しい秋の末と、日が暮れた草庵のわびしさのなかに若い里娘と老残の少納言という対比と、さらに2景の華やかな宮中とのコントラストとして描いているので、1景では、作者の要求する、ふんい気を表現すればよいのです。このことを念頭に入れて、スケッチプランをつくるのです。例えば、B図です。

●立面図の書きこみ

このスケッチプランから、立面図にまとめて書きこんでいくと、次頁のC図のようになります。



(B図)



●平面図の書きこみ

立面図のかきこみと平行してすすめます。これは、セットの平面図を何十枚もコピーして、演技者の動きをメモしたものを書きこんでいくもので、このスケッチで、演技者の動きがよくわかります。

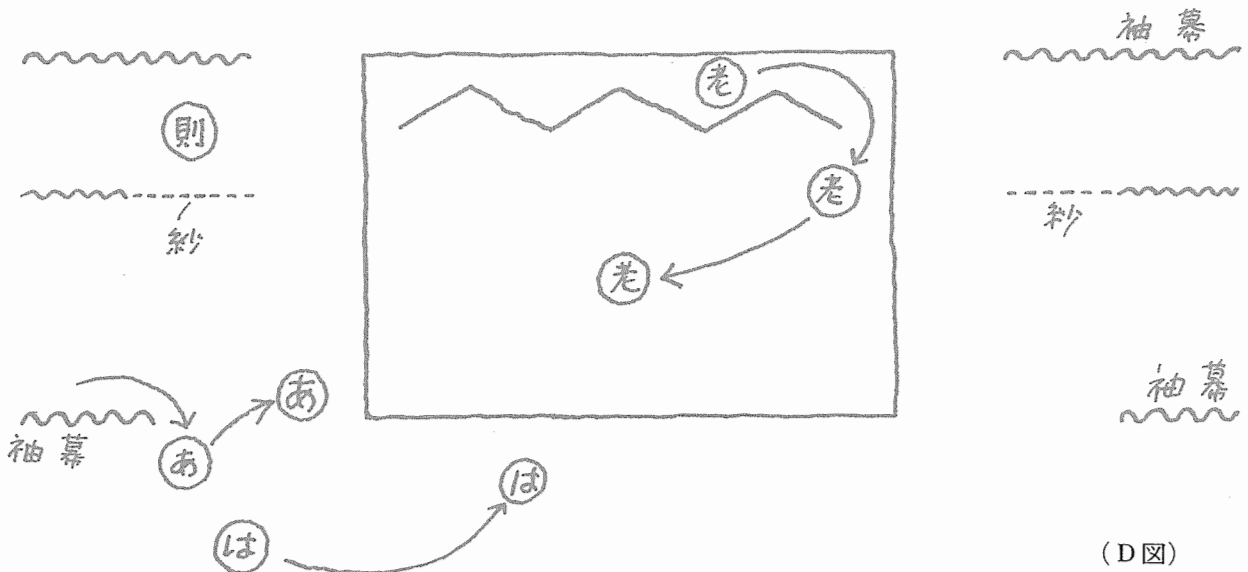
(D図)

立面図、平面図のスケッチがすんだら、いよいよ各景の照明仕込図を書きます。これは「やさしい舞

台照明入門」や、マルモライテングニュースにも書いてあるので、それを参考に自分のプランをたててみて下さい。

各景の仕込図を書くときは、照明器具の台数、コード、カラーフィルター、調光器などを考えて作ることです。

各景の仕込図を書くときは、照明総合仕込図なのです。



(D図)

舞台照明関係の書籍紹介

■やさしい舞台照明入門 牛丸 光生著

マルモライティングニュースに8回にわたって連載されたものに補足して単行本としたもの
 △内容—舞台照明とは／光を演出する／光を造形する器具／舞台用語／舞台照明の作り方／舞台照明の仕事／名作の舞台照明／光で描く絵／
 学校演劇・アマチュア演劇向けでイラスト・図面、写真入り ￥2,000

■初歩の舞台照明の手びき 柘植 卓輝編

△内容—舞台照明の仕事／電気／照明器具／舞台照明の仕業／光／色／芝居心／
 初心者向け ￥1,000

■オペレーターのための 舞台照明技術 柘植卓輝編

△内容—舞台照明の歴史／照明の仕事／舞台照明の基本／舞台照明の実例／諸設備管理上の問題点／
 劇場ホール管理者向け ￥1,300

■舞台・ テレビジョン照明 日本照明家協会編

内容—舞台・TV照明の基礎知識／劇場の機構設備器具／調光装置／器具の操作と保守／舞台稽古までの準備／テレビジョン照明／安全管理のための基礎知識／
 照明家協会講習会用テキスト ￥2,000

■新・舞台用語実用事典 牛丸 光生編

△内容—大道具の用語／小道具の用語／舞台衣裳の用語／メーキャップの用語／舞台効果用語／
 演劇愛好家向け ￥1,800

■舞台照明 大庭 三郎著

舞台照明の発達／舞台照明の定義／舞台照明の要素
 舞台照明の設備／投影器による照明効果／カラー
 フィルター／操作と設計／舞台照明記録／
 照明家向け ￥2,600

■全国劇場ホール設備資料全集（東京編）

各劇場ホールの舞台設備、舞台照明、音響設備、映写設備の明細及び図面が記載されている。

￥16,000

■日本照明家協会研修用パンフレット

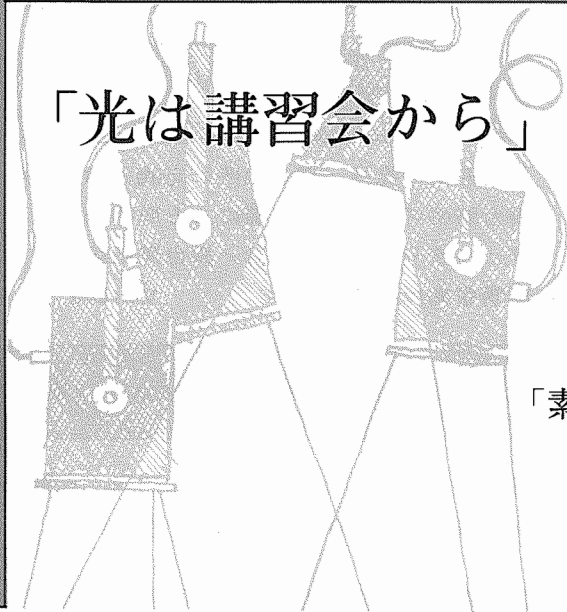
1. 舞台照明の基本的役割と作り方の基礎知識
(小川 昇筆)
2. 舞台照明現業の話 (岩品健介筆)
3. 色彩と視覚 (大山正筆)
4. サイリスタ調光器 (渡辺良三筆)

各 ￥400

◎いずれもマルモ又は
 マルモの取扱店で
 取扱っております、
 御注文は現金をそえて
 お申込みください。

「舞台照明の実験と実演による講習会」より

「光は講習会から」



昨年の10月22、23日、秋田のわらび座にておこなわれた、日本照明家協会主催の「舞台照明の実験と実演による講習会」のうち、素材「廬山夜雨」の公演についての感想を、当日の演出者と照明担当者に書いていただきました。

「素材上演」感想の記 角館南高校演劇部顧問
遠藤 康

プロローグ

会場が「わらび座」であったため、距離的に一番近く、また学校の文化祭も既に終わっており、コンクールまでの間が比較的長いこともあって「素材上演」をひき受けてみる気になった。

イヤ正直いって、距離という空間的理由や、間という時間的理由もさることながら、軽はずみといおうか恐ろしさ知らずといおうか大胆不敵といおうか、とにかく「よし一つ“光”を学んでみよう」という心理的理由が一番大きかったように思う。

イントロダクション

学校の体育館（というより体操場）を会場にして上演した春の発表会では、ローアホリゾンとベビーライトのサスペンション3つに、やはりベビーのシーリング3つに、やはりサイドのスタンドスポットという“光”で上演した。

従って、一場と三場のホリゾンとは同じで、時間の推移など表現できなかったし、シーリングとスポットは、ただ「見える」明るさにするのでせいっぱいだった。また、ステージは天井が低く奥行きが狭く、紗幕の後ろのサスペンションを上から垂直に吊ってしまった。

ライズ

さて今度は、「わらび座」のあの広いステージで上演するプランを作らねばならぬ破目になった。や

る気なら、イヤ、やれるなら、どんなことでもやれる舞台構造だし、照明器具も豊富だ。しかし、ズブの素人の哀しさ、たとえ器具が豊富であっても使いこなせない……。 「そこに器具があるから使う」のではなく「そこに“光”が必要だから器具を使うのダ」というリクツは頭で分っていても、いざ実際となると「必要な光」が定かでない。

クライマックス

当日の午前中、初めて実際的な練習をやった、しかし、光の変わる場面を何回くり返し練習してもうまくいかない。必ずといっていいほどハレーションを生じてしまう。私は苛って生徒のオペレーターをしかりつける。とうとう効果係は緊張で腹痛を訴え、当のオペレーターは泣き出してしまう始末。しかし白状するが、本番の時にはわがオペレーターに乞われ、照明室に向いて手伝ったのだが、そのあまりのスイッチの多さには正直言って閉口した。

リターン

ハレーションが生じてしまうのは、わがオペレーターの「きっかけ」が悪いのでも何でもなく、実はプランナーである私のプランに原因があることに、その後の講習で明らかになった。特に紗幕の後ろに吊したサスペンションの位置と角度、それにフィルターの色は失敗だった。わけても色の失敗は「幻」であるべきなのが「幽霊」のように見えてしまった

「舞台照明の実験と実演による講習会」より

ので致命的な失敗だった。また、老女の回想で一場から二場へ転換するシーンで、老女に当てるサスペンションの色と、そのホリズントをつけていたのも、指摘された通り観客の視線をあらぬ方向へそらさせ、集中させ得なかったのだと気がついた。

カタストロフィー

挙げると失敗した点は数え切れぬほどあるが、要するに「舞台照明の設計はすべて観客をものさしとして計算されたものでなければならない」という原則に、コロンブスの卵みたいに、今更ながら思い至った次第である。そうでないと今回みたいに、ひとりよがりの「明り」になってしまうのだという事を、身にしみて感じた。しかし、そのためには、「ど

んな光”を“どこ”から“どこ”へ“どれだけの量”で」ということを心得ておく必要にどうしても迫られた。

エピローグ

このような意味で、このたび「素材上演」に出さしていただいたことは、大変な勉強になった。私にとって舞台照明は暗闇であったが、このたびの講習会を通して一条の光がさして来たように思えてならない。「光はオリエントから」ならぬ「光は講習会から」である。これからは、今回学んだ事を私達なりに生かして、来たるべくコンクールめざして頑張ってみよう。

指が20本くらい欲しい

照明係をやって 角館南高等学校 二年
佐々木浩子

「廬山夜雨」は、春の発表会のときにも上演しており、我が校としては二度目でした。春のとき私は裏の仕事をしていたため、ほとんどともにステージを見ていませんでした。正直いって照明など自分には縁遠いものだと考えていたため、気にもかけずにいました。けれど二度目の今回、突然先生に照明をやれと言われ、目玉が飛びだすほど驚きました。

2泊3日の合宿では、個人練習と暗転の時の道具の入れかえを重点的にやりました。照明は学校にある調光器が故障しており、練習できず19日にわらび座へ行った時も照明器具がとりつけられてなかったため練習できませんでした。そうして当日9時頃わらび座へつきさっそく練習……と思ったら、おそろしいくらいの照明の数、青くなってオロオロしている私たちに、わらび座の人たちは親切に教えてくださいました。午前中いっぱい照明合わせ、何回もとちりそのたびに先生におこられて、お昼のごはんもなかなかのどを通ってくれませんでした。

2時50分開演、1ベル、2ベル、そしてとうとう幕が上ってしまいました。わらび座の人から、そんなに緊張しなくてもいいと言われ、深呼吸をしてステージを見つめました。春の発表会のとき、衣裳が変わった人もいましたが、今回の方が前の衣裳よりいいように思いました。照明室はステージのななめ上にあり、セリフがよく聞こえなかったためスイッチを入れるのが遅くなったりしてしまいました。一場から二場、二場から三場へと移る所と最後が特にむずかしく、指が20本くらい欲しいと思いました。青くなったり赤くなったりふるえたりしながら、先生にも手伝ってもらい、何とか大きな失敗もせずに幕が下りました。#61のサスを消し終わった瞬間どっと緊張がゆるみ、うれしさがこみあげてきました。あー終わったんだ……。

上から見おろした「廬山夜雨」正面から見るのはまた違って、いい所もあったけど、ななめ上だったため上手が良く見えなくて残念でした。

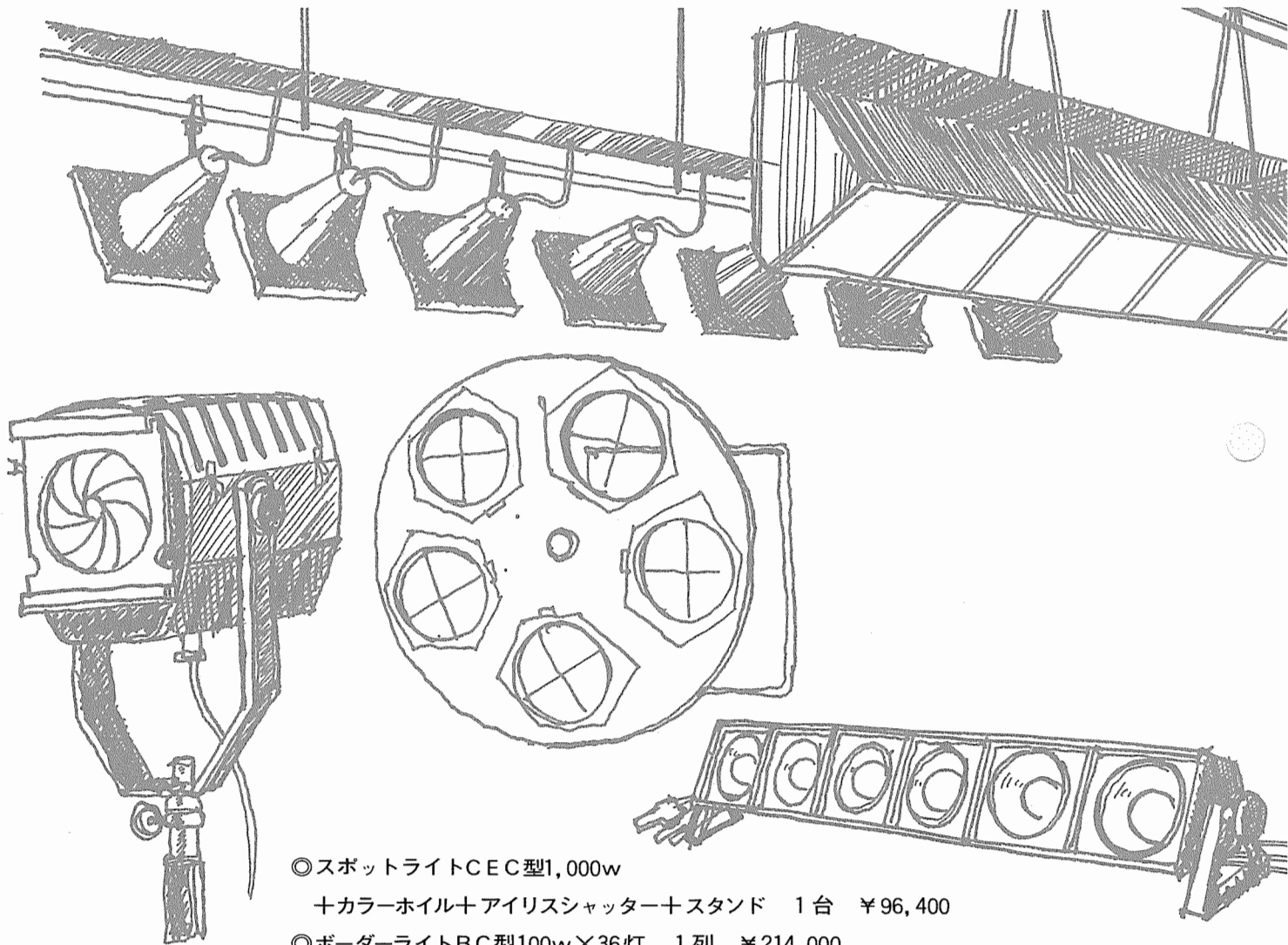
使ってみませんか

卒業記念に、舞台照明設備を贈りませんか

舞台照明設備は、高価なものと思
っていらっしゃるかも知れませんが、
準備をしておけば、それ程のもの
はありません。

「受験地獄、なんて、イヤな言葉が流行して久し
くになりますが、“他人をケ落しても自分が”という
風潮になってトゲトゲしいですね。

文部省でも教育の現状を考えて、“ゆとりある学
校生活”というキャッチフレーズでなんとか楽しい、
豊かな教育環境をつくろうと努力 始めました。



◎スポットライトCEC型1,000w

十カラーホイール十アイリスシャッター十スタンド 1台 ¥96,400

◎ボーダーライトBC型100w×36灯 1列 ¥214,000

(取付費別)

使ってみませんか

卒業記念に、舞台照明設備を贈りませんか

これだけそろえれば、学芸会、音楽会、演劇発表会、講演会、卒業式、入学式などが、いままでとまるで違ったものになります。

楽しいときには、楽しさが。厳粛であるべきときには厳粛さが。創造的でなければならないときには、創造性豊かに。

卒業生、父兄、先生方、いつも熱心に「教育」を考えておられる皆さん！

学園に、創造性豊かな、楽しい勉学環境をつくらうではありませんか！

マルモが、その手助けをいたします。

◎ピンスポットEQ-20型1,000w

＋カラーホイル＋スタンド 1台 ¥163,900

◎サスペンションライト

DF型500w スポットライト＋ハンガー 1台 ¥24,700

T-1型500w スポットライト＋ハンガー 1台 ¥18,700

マルモへお問合せください。皆さんの計画にあわせて相談にのります。

東京都千代田区神田須田町1-24 TEL (03) 252-0321 (代)
名古屋市中区栄4丁目1-1 (中日ビル内) TEL (0522) 261-1111(内線425)
大阪市北区神山町6-10 TEL (06) 312-1913・1922

照明のことば

●ライトオープン (L.O)

舞台が明るいままで、幕をあけることをいいます。

●ライトカーテン (L.O)

舞台が明るいままで、幕が閉まることをいいます。

●フェイド・イン (F.I)

溶明のことで、真暗な舞台から、次第に照明が入って明るくなることをいいます。

フェイド・インの技法は、単純に、舞台全体を明るくしていく場合と、一部分が明るくなり、次第に全体を明るくする方法があります。

シルエットからフェイド・インから、徐々に明るくする方法が、よくみられます。

●フェイド・アウト (F.O)

溶暗のことで、明るい照明から、徐々に暗くしていくこと。

スピードは、フェイド・インと同じように、演出上の事もありますが、上演様式によって、緩急自在で、早いフェイド・アウト、ゆっくりしたF.Oなどといえます。

●スイッチ・イン (S.I)

一瞬で、舞台の照明を点灯する方法。

●スイッチ・アウト (S.O)

一瞬で、舞台の照明を消灯する方法。

●ダーク・オープン (D.O)

真暗なまま、舞台の緞帳をあけることをいいます。照明が、点灯されないで幕を開けることをいいます。

■編集だより

昨年(1999)の10月22・23日秋田県田沢湖畔のわらび座劇場で、日本照明家協会主催の“舞台照明の実験と実演による講習会”がおこなわれました。当日は、高校演劇、アマチュア演劇関係者約400名の参加があり、成功のうちに終了しました。

特に角館南高校演劇部の“廬山夜雨”上演のための照明プランは、山ノ内晴雄氏の“廬山夜雨”を素材にして、これを実際に上演するについての舞台照明の計画から、上演までのすべてに関する講義で、大変興味深く好評を博していました。

今回、牛丸光生氏に特にお願いし“廬山夜雨”の照明ノート《照明プランの作り方》を執筆していただきました。

また角館南高校演劇部顧問遠藤康先生と照明担当者佐々木浩子さんの感想をのせていただきました。

今回は、牛丸光生氏の“たのしい舞台照明”の内「演出と照明」を、佐々俊之作「英雄」の照明ノートなどを掲載したいとおもいます。

六月発行予定です。ご期待ください。

発行 丸茂電機株式会社
東京都千代田区神田須田町1-24
〒101 TEL (03) (252) 0321(代)
製作 キャピタル企画
(不許・複製)

取扱店